

#### ■米国：北米電力信頼度協会が長期供給信頼度評価を発表

北米電力信頼度協会（NERC）は2012年11月29日、北米の今後10年間（2013年－2022年）の電力供給信頼度評価を発表した。報告書によると、今後10年間で天然ガス火力の増加、環境規制強化による石炭火力発電の廃止、風力や太陽光などの間欠性電源の増加、デマンドサイドマネジメントなどにより、多くの供給信頼度問題に直面するものの、テキサス電力信頼度協議会（ERCOT）管内を除いては、概ね十分な供給信頼度を確保できると述べている。ERCOT管内については、早ければ来年夏にも供給信頼度問題（必要供給予備率13.75%を下回る）が発生すると述べている。また、2017年までに約6,400万kWの化石燃料焚き発電所の廃止が見込まれる一方で、2022年までに約7,100万kWの発電容量の増加が見込まれると述べている。